

校長室だより～和光高校OB列伝 第2号 H28.4.12

埼玉県立和光高等学校 校長 村田 進

今回紹介するOBは第9期生（昭和55年入学・58年卒業）の高柳一夫さん。海外での大使館勤務などを経て、現在は埼玉県警察本部でご活躍されている。多士済々の9期生の中でも高校時代から周囲の信望厚いとびきりの優等生であり、それは「ラグビー部でありながら勉強もできる」という類まれな評価から生まれている。吉田道行先生率いる9期生はそれまでの8クラスから10クラスへと一気に90名の定員増となった学年である。バイタリティに溢れた生徒たちが大挙して入学し、特に運動部が最も華やかな時代を築く。その中でも期待を集め中心的役割を果たしたのがラグビー部。同学年の冨沢宏は日体大に進み主将として活躍（現在は川越工業で勤務）、並木一喜は大東文化大に進学し4年次には大学日本一に輝く（現在は家業を継ぎ社長）。タラレバになるが選手権準決勝行田工業戦直前の1学年下のプロップ早川章央の骨折が無ければ花園の舞台を彼らが席卷したであろう。



卒業アルバムより 前列右から二人目が高柳さん

3年秋も深まる引退後から高柳さんの受験勉強が本格的に始まる。集中力は抜群であり見事難関の文教大学の合格を勝ち取った。「政経」の教科担当であった私にとり学年末考査で120点をとられた記憶は鮮明である。記述試験であったが模範解答をはるかに上回る素晴らしい解答には満点以上を与えざるを得なかった。4年後には教育実習生として和光高校に戻ってくる。社会科教師と警察官のせめぎあいは後者に軍配が上がったようだが教



第99回 関東高校ラグビーフットボール大会 5.56.6.6-7 於千歳総合運動場

育界にとっては惜しい人材であったと思う。「武」に秀でる者が多かった当時の和光高校にとって数少ない文武両道の実践者、人知れずの努力の賜物であったことは間違いない。

2年次の関東大会、
左端が高柳さん

～高柳さんからのメッセージ～

和光高校ではラグビー一色の生活でした。日本一をめざし吉田先生のご指導を受け、部員全員で励まし合いながら高め合ってきました。思いは結果として届きませんでしたでしたが悔いは一切ありません。一つのことを打ち込めるのはおそらく高校3年間だけだと思います。生徒の皆さんもそれぞれの夢に向かって毎日をしっかりと過ごしてください。ラグビー以外では2年次の男子クラス（担任は吉田先生）のことが印象に残っています。運動部の猛者が集まったクラスで、ラグビー部は全員この1組でした。修学旅行は男子だけという寂しさこそありましたが本当に楽しい五日間でした。先日学校を久しぶりに訪問する機会をいただきました。公務員を志望する生徒さんに話をさせていただきましたが、努力は必ず自分に返ってきます。今をしっかりと生きてほしいと願っています。頑張ってください。



2月に来校し講話を行う高柳さん
右は同級生の清水和美さん（和光消防署勤務）。